

昭和初期の草津名所の絵はがき

日本の郵便制度は明治4年（1871）に始まりますが、明治33年（1900）に私製はがきの使用が認められるようになった後、名所の写真などを題材とした絵はがきが大都市などで刊行されブームとなりました。

明治末にブームが落ち着くと今度は中小都市など全国津々浦々で絵はがきが刊行されるようになります。しかし、昭和12年（1937）日中戦争の開戦によって資材不足となり、その後発行数は極端に減少していきました。

今回紹介するのは、このようななか昭和初期に草津近辺の写真を題材に刊行された絵はがき集です（草津宿街道交流館所蔵）。

草津駅や草津競馬場、玉川公園、姥ヶ餅本舗、草津警察署、草津川の桜、草津尋常高等小学校、滋賀県立栗太農学校、立木神社などはがき15枚がセットになり、「草津名所絵はがき」というタイトルが付された袋に入っています。

印刷したのは地元草津の谷村天正堂。地元の情報を提供する「日本教化新聞」を発行していた印刷所です。

写真で一番上にある絵はがきは当時の草津駅です。現在の駅舎は昭和42年（1967）に完成したのですが、それまで長年使われていた木造の駅舎が写っています。駅前には自動車（タクシー）と人力車が共存する様子を見て取ることができ、陸上交通手段の過渡期と捉えた一枚といえましょう。

このように地方都市の当時の実情を伝える資料としても貴重な絵はがき集です。

